



[ロゴマークについて]

- ・ロゴは、アルファベットの「Z」(全銀システムのZ)をモチーフにしています。
- ・中央の2つの円が全銀システムの2つのセンターを、上下の円が接続先の金融機関をイメージしており、それぞれを近くに配置することで、システムの柔軟性と拡張性を表現しています。
- ・配色の青と赤は人体の静脈と動脈をイメージし、全銀システムが日本経済の血流を円滑に流通させるインフラであることを表すものです。

[会社概要]

名 称 一般社団法人 全国銀行資金決済ネットワーク(全銀ネット)
英文表記 Japanese Banks' Payment Clearing Network (Zengin-net)
代 表 者 理事長(代表理事) 岩本 秀治
役 員 数 理事長1名 / 理事10名 / 監事2名
所 在 地 〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番1号 朝日生命大手町ビル
設立年月日 2010年4月1日
基 金 5億円
事業内容 「資金決済に関する法律」における資金清算業
資金清算業に関連する業務
その他資金決済法69条により主務大臣の承認を受けた業務

全国銀行資金決済ネットワーク

〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目6番1号 朝日生命大手町ビル Tel.03-6262-6777 URL:<https://www.zengin-net.jp/>

全銀ネットのご案内

全国銀行資金決済ネットワーク



全銀ネット（一般社団法人全国銀行資金決済ネットワーク）は 金融機関相互間の内国為替取引をオンライン処理する 「全銀システム」を運営しています。

わが国の経済が安定的かつ持続的に成長するためには、日々の経済活動が安定的に行われていることが不可欠です。そして、そのためには、経済取引における資金の受渡し、つまり「決済」が円滑に行われる必要があります。決済システムは、「決済」を円滑に行うための基盤インフラのひとつであり、非常に重要な役割を担っています。

全銀ネットは、社団法人東京銀行協会によって運営されてきた内国為替運営機構（1973年発足）を引き継ぎ、2010年10月から業務を開始しました。

決済システム運営者としての全銀ネットの最も重要な使命は、経済のインフラとしての決済システムを安全かつ安定的に運営することです。その一方で、近年の様々な環境変化に伴って、決済サービスの利用者側のニーズやリスク・プロファイルは大きく変わってきています。決済システムの効率化、国際標準化への対応、顧客ニーズへの対応に向けた取組み等が強く要請されています。

こうした世の中の要請や潮流等を踏まえ全銀ネットは、2018年に全銀システムにおいて、24時間365日振込の即時入金を実現する「モアタイムシステム」を稼働させたほか、企業間の振込電文のXML電文化に対応し、振込データに様々な情報を紐づけられるよう、「全銀 EDI システム (ZEDI)」を新たに稼働させました。

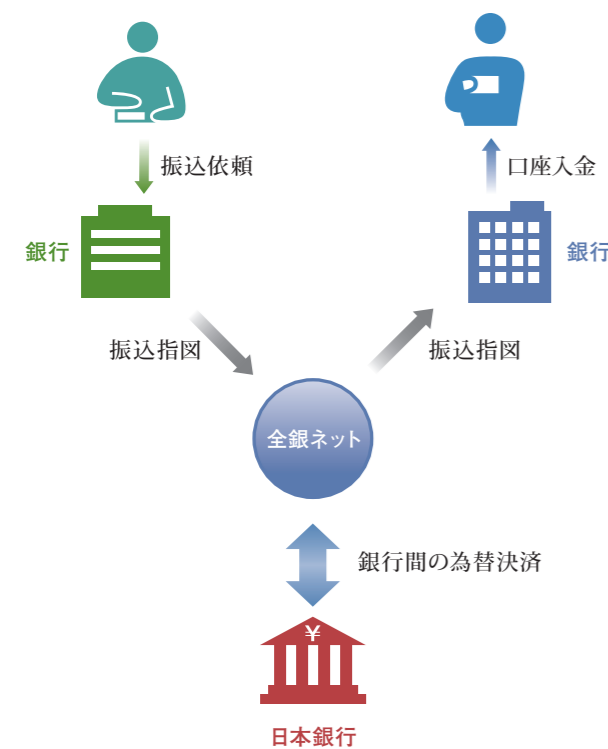
私どもでは、時代の要請を的確に捉え、また環境変化に対して柔軟に対応し、進化を続けられるような決済システムを実現することを目標としています。

今後とも、皆様方にご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

一般社団法人全国銀行資金決済ネットワーク
理事長
岩本 秀治



振込取引と全銀ネット



全銀ネットとは

全銀ネット（一般社団法人全国銀行資金決済ネットワーク）は、「資金決済に関する法律」にもとづく、わが国初の資金清算機関であり、2010年10月から業務を開始しました。

全銀ネットは、社会的基盤である金融機関間の資金決済を円滑・安全かつ効率的に実施し、信頼ある金融インフラを構築することによって国民生活の向上に資することを目的としています。この目的を達成するため、全銀ネットは、全国銀行内国為替制度を運営しています。

全国銀行内国為替制度

全国銀行内国為替制度（内為制度）は、金融機関をオンラインで結び、金融機関相互の振込や送金などの為替取引を可能とする仕組みです。内為制度には、銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、農業協同組合など、わが国のほとんどの金融機関が加盟しています。

現在では、1,200を超える金融機関が内為制度に加盟し、それらの3万以上の店舗の間で為替取引が行われています。

全銀システム

全銀ネットが運営する内為制度の中核を担うシステムが「全国銀行データ通信システム」（全銀システム）です。

全銀システムは、加盟金融機関を通信回線で結び、金融機関間で授受される振込等の為替取引に関するデータを集中的に処理するためのシステムです。

その最大の特徴は、為替取引データが金融機関間で授受されると同時に、ほぼリアルタイムで受取人の口座に資金が入金されるという迅速性にあります。

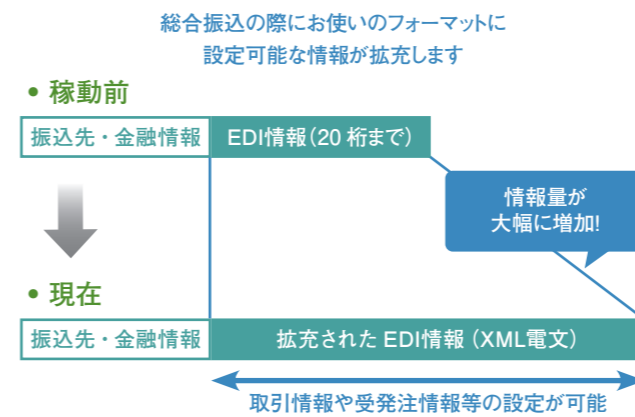
従来の平日日中の即時入金に対応した「コアタイムシステム」に加え、2018年10月から、平日夜間・土日祝日の即時入金に対応した「モアタイムシステム」を稼働させたことにより、24時間365日、振込の即時入金を可能としています。

ZEDI とは

全銀 EDI システム (ZEDI) とは、企業間の総合振込電文を金融取引における次世代の国際標準である XML 電文 (ISO20022) へ移行し、金融 EDI 情報の拡充に対応するため、全銀システムと別に構築したシステムです。

ZEDI は、企業間の振込電文に取引明細などの商流情報の添付を可能にし、売掛金等の自動消込等による企業の決済事務の効率化、生産性の向上を目指すとともに、金融機関による新たな決済サービスの提供やイノベーションの推進（決済高度化）をサポートすることを目的としています。

ZEDI による EDI 情報の拡張



EDI 情報: 支払企業から受取企業に伝達するメッセージ。支払企業側が設定 XML 電文: 電文の長さなどを柔軟に設計・変更することが可能な電文方式
※ ZEDI について、詳しくは <https://www.zengin-net.jp/zedi/> をご覧ください。

資金清算機関とは

資金清算とは、金融機関間の1件1億円未満の為替取引の結果生じた債権債務関係を債務引受け等の方法によって清算することを指し、全銀ネットは、内為制度の運営者として、この資金清算を業として行っています。（1億円以上の大口内国為替取引は、日本銀行における RTGS（即時グロス決済）で決済されています。）

2010年4月に施行された「資金決済に関する法律」では、資金清算業は内閣総理大臣の免許を受けた者でなければ行ってはならないとされており、全銀ネットは同年9月に資金清算業免許を取得しました。

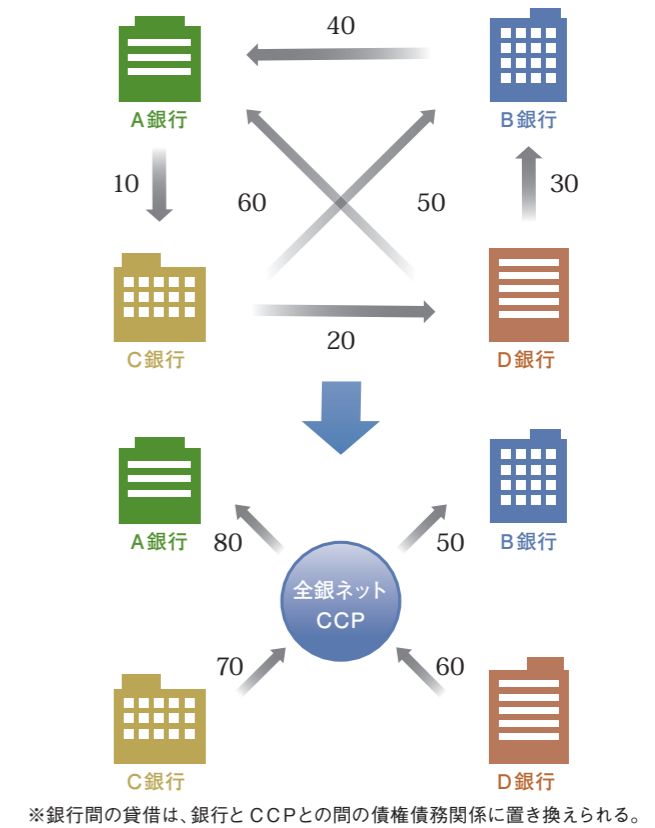
セントラル・カウンターパーティ

内為制度では、1件1億円未満の為替取引に伴って生じた銀行間の債権債務を、加盟金融機関と全銀ネットとの間の債権債務関係に引き直したうえで、日本銀行に開設した全銀ネットと加盟金融機関の当座預金口座の間の振替によって為替決済を行っています。

このため、全銀ネットは、金融機関との決済において、すべての金融機関の一方当事者、つまり「セントラル・カウンターパーティ」としてその役割を果たしています。

■セントラル・カウンターパーティ(CCP)としての全銀ネット

※図の数字は振込取引に伴う銀行間の貸借（債権債務関係）を表す。



※銀行間の貸借は、銀行と CCP との間の債権債務関係に置き換えられる。